

特集に当って

日下 泰夫

近年、冷夏、暖冬、干ばつ等の異常気象に象徴されるような環境破壊に伴う地球の生態系の乱れがとみに顕在化し始めており、環境破壊を食い止める方策や異常気象に対処する方策を地球規模で打ち出すことが急務とされている。また、より短期的な現象に関しても、雨天による行楽客や買物客の減少、日照り不足による農産物の不作・価格の高騰、冷夏による冷房器具需要の落込み、猛暑による電力需要の急増、暖冬によるスキー客の減少など、気象はわれわれの日常生活はもとより、農業、漁業、畜産業、工業、商業、サービス業等の産業・経営の分野に広範な影響を与えている。当然のこととして、気象状況に絶えず注目し、それらの状況を事前に予測し、種々の活動に反映させることが大切となる。なかでも、天気予報はわれわれにとって一番馴染み深いものであるが、気象衛星等の観測技術や分析技術の進歩によって以前に比べてはるかに予測精度が向上しているというのが素人としての偽らざる実感である。さらに、これらの気象情報は情報ネットワークを通じて瞬時にかつ広範囲に伝達されることも可能になっている。

こうした状況のもとでは、もしも気象が産業・経営に与える影響（つまり、因果関係のメカニズム）を明らかにすることができるならば、気象要因を産業・経営の活動に積極的かつ科学的に取り込むことが可能となるであろう。気象に関する予測技術の向上、システム・ダイナミクスや多変量解析等による分析・予測手法の発達、情報の伝達・処理技術の進歩に伴い、気象と産業・経営との結びつきは種々の分野で以前にも増して強くなりつつあると推測される。しかしながら、この問題に直接係わっている人はさておき門外漢にとって、その結びつきの具体的内容は必ずしも明確ではないように思われる。このような理由から、本特集号では「気象と経営」をテーマに、気象が個別の産業・経営の問題と具体的にどのよ

うに係わっているかについて執筆していただいた。

唯是氏は異常気象が世界の食糧生産に与える社会的効果について近年の事例にもとづいて論じ、世界の食糧供給体制のアメリカ依存体質および異常気象に対する世界の食糧生産の過剰反応という問題点を明らかにし、これらの問題点が改善されない限り異常気象に伴う世界の食糧危機は今後も続くことを指摘している。

友定氏はマイワシの漁獲量の変動に気象の短期変動がどのように影響しているかの因果関係を分析している。特に、産卵場・シラス生育場の気象条件として、生育時の餌となる動物プランクトンの個体数を雲量から推定する式を導出し、さらに、卵・シラス期の生き残り率の低下が以後の資源の減少に与える影響を推定している。

藤原氏は畜産物のなかでもとりわけ気象の影響を強く受ける飲用牛乳消費量と鶏卵価格が気象データ（夏期気温）をはじめとする諸要因によってどのように説明されるかを計量経済学の立場から回帰分析等を用いて明らかにし、豊富な経験にもとづく解釈を試みている。

奥山氏は単品レベルでの商品の動きを把握できるPOSデータを用いて、スーパーの入店者数・買物単価と気象、商品の売行きと最高気温の関係を分析し、POSシステムから得られたリアルタイムの情報を経営の活動に有効に活用することの重要性を指摘している。

小野氏は気象と電力需要の係わりについて、設備計画や料金設定の基礎資料となる日電力需要と、日々の発電設備や系統の運用計画立案に用いられる翌日最大電力の予測を、回帰分析モデルの選択の観点から検討している。

特集全体を通じて、気象と個々の産業・経営の具体的な係わりが、また、著者らが各分野の固有の知識にもとづく因果関係の分析、説明力のある気象要因の抽出、気象データの指数化、分析結果の解釈等を重視している点がおわかりいただけるのではないかと思います。

特集を企画するに当たり、気象に関して全くの素人である筆者にとって学会の名簿が1つのよりどころでしたが、これに記載されていた関係者のご尽力を通じていくつかの特集原稿が決定されました。これらの方々に感謝するとともに、名簿の効用、学会構成員の多様さについてあらためて認識させられた次第である。

くさか やすお 東京都立商科短期大学

〒104 東京都中央区晴海1-2-1